

産科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 札幌市における夜間緊急母体搬送支援システムの研究

【研究機関】 北海道大学病院産科

【研究責任者】 山田 崇弘 （産科・助教）

【研究の目的】

妊娠37週未満の早産は日本においては全妊婦さんの約5.5%に発生します。そして妊娠37週未満に産まれたあかちゃんは新生児集中治療室(NICU)での管理を必要とします。しかしNICUを備えた医療機関の数は限られている為に、国内の多くの妊婦さんはNICUを持たない産科施設（一次施設）で妊娠分娩管理を受けています。そういった妊婦さんが切迫早産の診断を受けた場合、通常はまず一次施設において治療を受けますが、症状が進行した場合はNICUを備えた三次施設への搬送が必要です。

特に夜間の母体搬送に必要な時間の問題(夜間には母体搬送先が決まる為に要する時間が長くかかる事が多い)が2008年に札幌において注目されました(2008年12月2日北海道新聞)。そこで、札幌市は2008年10月に、産科緊急搬送が必要と判断されてから搬送先が決定するまでの時間短縮を目的に、いわゆる「札幌市産婦人科救急システム (Sapporo Obstetric System for emergency patients :SOS)」を立ち上げました。SOSにおいては助産師の情報オペレーターが毎日18:30までに6つの三次施設から夜間の母体搬送受け入れが可能かの情報を収集します。そして19:00から翌朝6:00までの間、母体搬送を必要とする医師や患者からの電話での問い合わせに対し、受け入れ可能病院の情報を提供しています。また、患者さんからの電話相談にも同時に対応しています。

本システムが始まってから、三次施設への搬送を要する切迫早産がどれほど発生しているかの詳細な調査はまだなされていないため、私たちはSOSのデータを用いて一次施設において管理を受けている妊婦さんのうち、どれくらいの方に夜間の緊急母体搬送が発生しているかを調べる研究を計画しました。

【研究の方法】

●対象となる研究資料

2008年10月から2012年10月までに「札幌市産婦人科救急システム(Sapporo Obstetric System for emergency patients :SOS)」で扱った全例を対象として札幌市からその情報を入手.

[個人情報の取り扱い]

利用する情報には、患者さんを直接同定できる個人情報は含まれていません。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は含まれません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目

北海道大学病院産科 担当医師 山田 崇弘

電話 011-706-5941 FAX 011-706-7711